

風水害等に備えて

一部内閣府広報誌から引用
一部国土交通省ホームページから引用
一部気象庁ホームページから引用
一部千葉県ホームページから引用

大雨情報をキャッチ! こんなときのわが家の安全対策

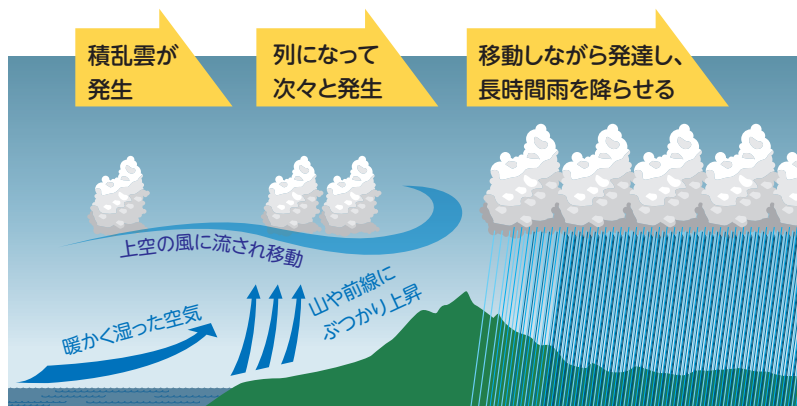
大雨特別警報	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合、特に警戒すべき事項を標題に明示して「大雨特別警報(土砂災害)」、「大雨特別警報(浸水害)」又は「大雨特別警報(土砂災害、浸水害)」のように発表する。
大雨警報	大雨による重大な土砂災害や浸水害が発生するおそれがあると予想される場合に発表する。
大雨注意報	大雨による土砂災害や浸水害が発生するおそれがあると予想される場合に発表する。

雨の強さと降り方(単位:mm/時)

10以上～20未満	20以上～30未満	30以上～50未満	50以上～80未満	80以上～
「やや強い雨」 ザーザーと降る。雨の音で話し声が良く聞き取れない。	「強い雨」 どしゃ降り。乗車時、ワイパーを速くしても見づらい。	「激しい雨」 バケツをひっくり返したような激しい雨。道路が川になる。	「非常に激しい雨」 滝のように降り、あたりが水しぶきで白くなる。傘は全く役に立たなくなる。	「猛烈な雨」 息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる雨。車の運転は危険。

線状降水帯とは

次々と発生する発達した雨雲(積乱雲)が列をなし、組織化した積乱雲群によって、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することで作り出される、線状に伸びる長さ50～300km程度、幅20～50km程度の強い降水域のこと。



記録的短時間大雨情報とは

数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を、観測(地上の雨量計による観測)したり、解析(気象レーダーと地上の雨量計を組み合わせた分析:解析雨量)したりしたときに発表されます。

この情報が発表されたときは、土砂災害や浸水害、中小河川の洪水災害の発生につながるような猛烈な雨が降っていることを意味しており、特に崖や川の近くなど、危険な場所にいる人(土砂災害(特別)警戒区域や浸水想定区域など、災害が想定される区域にいる人)は、避難情報を確認し、発令されている避難情報に従い、**直ちに適切な避難行動をとってください**。周りの状況を確認し、避難場所への避難がcaえて危険な場合は、少しでも崖や沢から離れた建物や、少しでも浸水しにくい高い場所に移動するなど、身の安全を確保してください。避難情報が発令されていなくても、今後、急激に状況が悪化するおそれもあります。危険を感じた場合には、**自ら安全な場所へ移動する判断**をしてください。

台風

日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、大きな被害をもたらすことがあります。
台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

台風の大きさと強さの目安

風速15m/秒以上の半径			最大風速(m/秒)		
大きさ	大型(大きい)	500km以上～800km未満	強さ	強い	33m/秒以上～44m/秒未満
	超大型(非常に大きい)	800km以上～		非常に強い	44m/秒以上～54m/秒未満
				猛烈な	54m/秒以上～

風の強さと吹き方(平均風速:m/秒)

10以上～15未満	15以上～20未満	20以上～30未満	30以上
「やや強い風」 風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	「強い風」 風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。看板やトタン板が外れ始める。	「非常に強い風」 何かにつかまっていないと立てられない。車を通常で運転することが困難になる。	「猛烈な風」 屋外での行動はきわめて危険。多くの樹木が倒れる。電柱や街灯で倒れるものがある。ブロック壁で倒壊するものがある。